

県の文化財に指定された

波爾布神社

饗庭の波爾布神社

新旭町饗庭にある波爾布神社は、社伝によると奈良時代に創立されたとされています。現在の本殿は、棟札（建物の建築・修繕の記録を記したもの）から元和10年（1624年）の建立で、その後幾度かの修繕・改修によって現在

の姿となったようです。

波爾布神社の特徴

その構造は、三間社流造、切妻造平入り、向拝一間、銅板葺となっております。

三間社とは、正面から見て柱が四本あり柱と柱の間が三つあるという構造です。流造は屋根の構造のことで、二方向に勾配がつく屋根（切妻造）の正面側が裏側より長い造りのことです。そのため本殿の屋根を左横から見ると「へ」の字型に見えます。三間社流造は一般的な構造で、全国各地で見ることが出来ます。平入りとは、屋根の一番上の棟（水平部分）に対して平行に入口が設けられる造りのことです。

次に向拝とは本殿正面の屋根の一部が張り出した部分（庇）のこととで、一間（約1.8m）ほどの広さがあります。この下は参拝者が礼拝を行う場所です。

銅板葺は屋根を銅板で覆っていることを指します。棟札の記

録から、建立当初の屋根は檜皮葺でしたが、昭和32年の修繕で銅板葺に変わったことが分かっています。

また、本殿各所に施された絵彫刻には中世から江戸時代の技法が使われているなど、当時の風格を今に伝えています。

この他の特徴として、本殿床下への入り口を設け、身舎の柱を一本抜いて空間を作り利用していたとうかがえることです。床上・床下ともに内部は煤により黒く変色しており、床下で僧侶が護摩を焚き読経したと伝えられていることから、近世の神仏習合の形態を示していると考えられています。

県指定文化財へ

意匠的にも貴重であり、また床下での祭祀の痕跡は県内の他の地域では見られないことから、平成29年11月24日に滋賀県指定文化財として指定されました。

編集 雑感

今月号は成人式について特集しています。自分の成人式は、ほとんど記憶に残っていませんが、取材という形で人生2回目の成人式に参加させていただきました。

新成人たちの晴れ着姿は、とても華やかで活力にあふれていました。今年は、実行委員会によるアトラクションが催され、7組の新成人が舞台から「想い」を語ってくれました。その発表する姿は堂々たるもので、とても二十歳とは思えない頼もしさがありました。彼らと仕事ができる日を心待ちにしています。（Y）

